

# 平成15年住宅・土地統計調査 速報集計結果

## ● 調査の目的

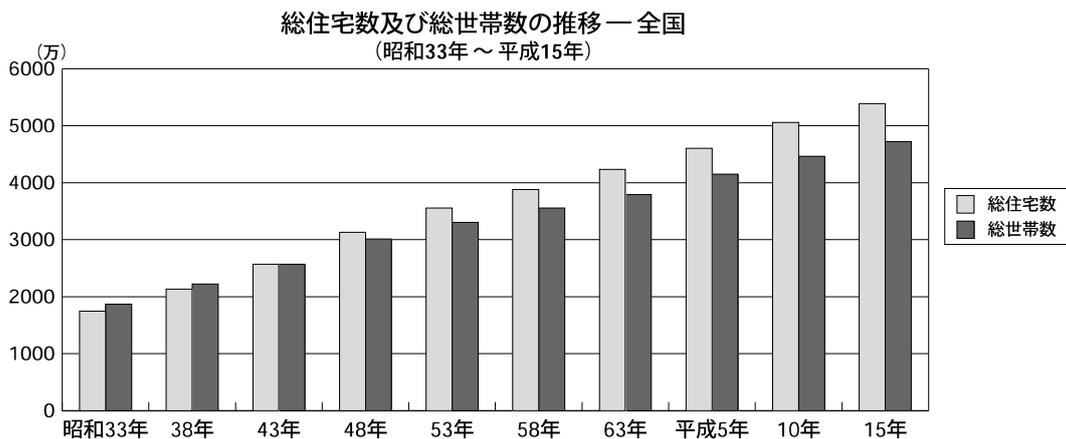
住宅・土地統計調査は、我が国における住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びに現住居以外の住宅及び土地の保有状況その他の住宅等に居住している世帯に関する実態を調査し、その現状と推移を全国並び地域別に明らかにすることにより、住宅・土地関連諸施策の基礎資料を得ることを目的としている。

## ● 調査の時期

平成15年10月1日現在で実施。

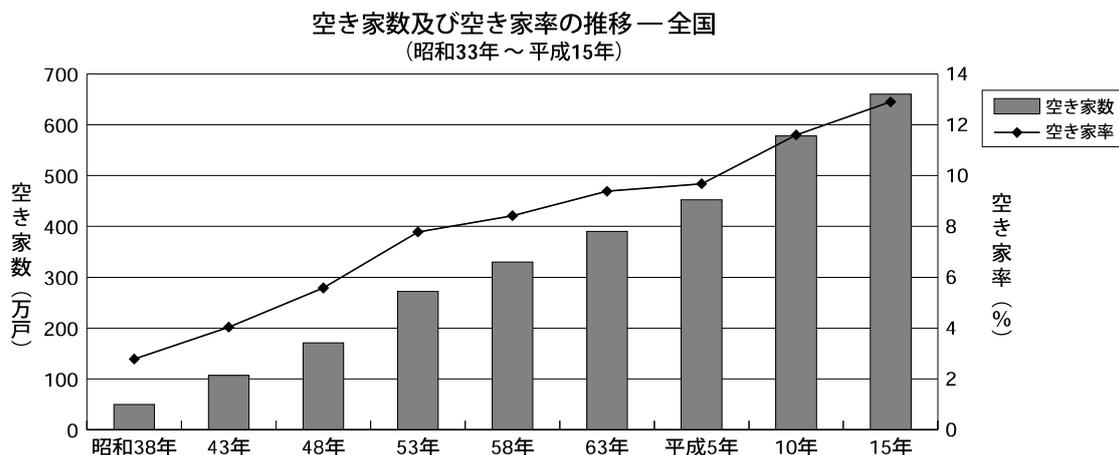
### 1. 総住宅数は総世帯数を664万上回る

- 平成15年10月1日現在における全国の総住宅数は5387万戸、総世帯数は4722万世帯となっており、総住宅数が総世帯数を664万上回る。
- 前回平成10年から5年間に総住宅数は362万戸、7.2%増加、総世帯数は286万世帯、6.5%増加。
- 茨城県の総住宅数は113万5,300戸（前回調査より6.6%増加）、総世帯数は98万8,400世帯（前回調査より5.9%増加）。



### 2. 総住宅数の1割を超えた空き家

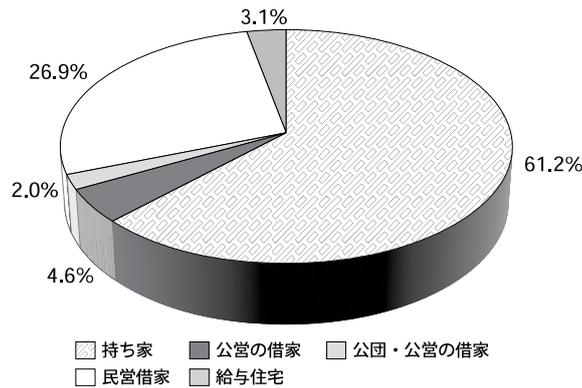
- 総住宅数5387万戸のうち、居住世帯のある住宅（ふだん人が住んでいる住宅）の数は4684万戸で総住宅数の87%。
- 空き家は660万戸となり、総住宅数に占める割合（空き家率）は12.2%にまで上昇。
- 茨城県は総住宅数113万5,300戸のうち、居住世帯のある住宅の数は98万2,400戸で総住宅の86.5%。
- 空き家は14万6,700戸となり、総住宅数に占める割合（空き家率）は12.9%にまで上昇。



### 3. 持ち家住宅率は61.2%に上昇

- 住宅を所有の関係別にみると、持ち家が2866万戸で、住宅全体に占める割合（持ち家住宅率）は61.2%、借家が1716万戸、36.6%。
- 茨城県で、居住世帯のある住宅を所有の関係別にみると、持ち家は68万7,500戸で、持ち家住宅率は70%。前回調査の70.4%と比べて、ほぼ横ばいとなっている。ただし、全国の持ち家住宅率61.2%であるため、茨城県はこれを8.8ポイント以上上回り、持ち家率が高くなっている。

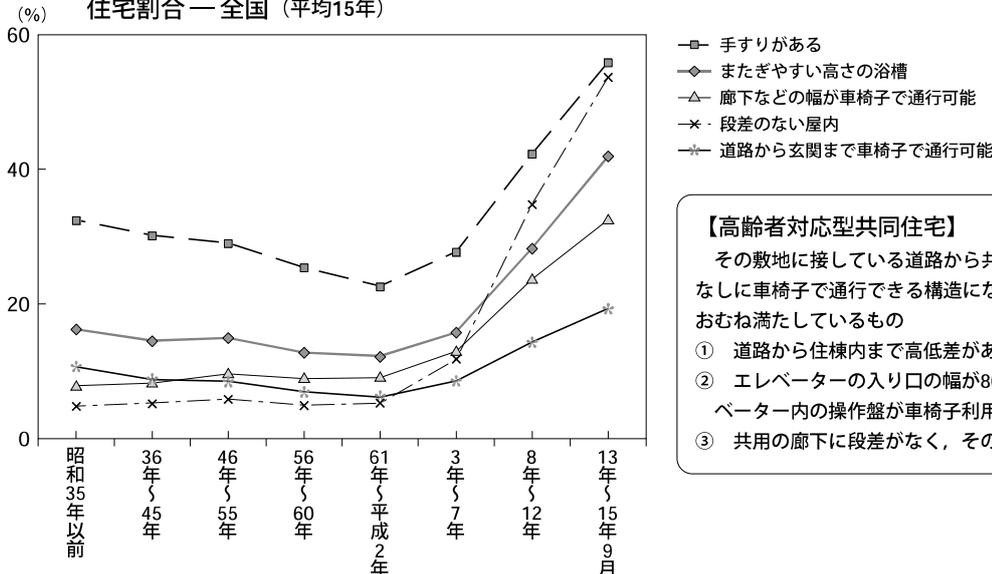
住宅の所有関係別割合—全国（平成15年度）



### 4. 階段に手すりがある住宅は19.7%、浴室15.1%、トイレ13.3%

- 高齢者等のための設備として、住宅内に手すりがある住宅は30.4%（うち階段が19.7%、浴室が15.1%、トイレが13.3%）、またぎやすい浴槽17.5%、廊下などが車椅子で通行可能12.7%。
- 平成13年度以降建築された住宅では、手すりがあるのが55.8%、またぎやすい浴槽42.1%、廊下などが車椅子で通行可能32.9%、段差がない屋内53.8%、道路から玄関まで車椅子で通行可能19.5%と、最近建築された住宅で高齢者等に配慮した設備のある割合が高い。
- 共同住宅に居住する高齢者のいる主世帯の19.9%が高齢者対応型住宅に居住。
- 茨城県で、高齢者のための設備として、住宅内に手すりがある住宅は31.6%（うち階段が21.9%、浴室が15.0%、トイレが12.8%）、またぎやすい浴槽19.5%。

建築時期別にみた高齢者等のための設備がある住宅割合—全国（平均15年）



#### 【高齢者対応型共同住宅】

その敷地に接している道路から共同住宅の各住宅の入口まで介助なしに車椅子で通行できる構造になっており、次の三つの要件をおおむね満たしているもの

- ① 道路から住棟内まで高低差がある場合は傾斜路を設置
- ② エレベーターの入り口の幅が80cm以上、乗り場ボタン及びエレベーター内の操作盤が車椅子利用者に配慮された設計
- ③ 共用の廊下に段差がなく、その幅が140cm以上